



村民号 出雲に行きました



10月30日(日)3年越しの出雲への村民号が開催され、多世代の44人の参加があり大型バス2台に分乗して出発しました。片道4時間の車内ではビンゴゲームや脳トレクイズ等で楽しく過ごしました。

出雲大社御本殿までの参道をウォーキングして進み、それぞれ2礼4拍手1礼で参拝しました。出雲大社は神在月で多くの参拝客でした。その間に記念写真も取りましたが案内不足で残念なことに全員は揃っていません。その後、昼食場所の島根ワイナリーに移動、食事のあとは試飲と買い物をして帰路につきました。長距離のバス旅行でしたが皆さん「楽しかった」と感想をいただきました。

次回、計画しました時には多くの参加をお願いします。また、行先の希望がありましたら参考にさせていただきますので、体育委員・事務局にお知らせください。



国際交流で三味線体験

10月23日(日)外国人モニターツアー(やぶ市観光協会が企画)に参加された国際交流員のロメロ・セサルさんら6人の外国(カナダ・アメリカ他)の方と地域の方との交流会が宿南ふれあい倶楽部で開催されました。三味線の体験を希望されており、講師を地元三志会のメンバー4人にお願いし、歓迎の演奏「津軽三味線や民謡」を聴いた後、三味線の体験が始まりました。持ち方・構え方・譜面の見方などの指導をしていただき、譜面を見ながら唱歌「さくら」の練習が始まりました。短時間の練習でしたが全員の方が初心者とは思えないくらいとても上手に演奏されていました。中には「帰ったら三味線教室を探して習います。」と言っておられる方もありました。最後に全員で記念写真に収まり終了しました。日本文化を知っていただく良い機会となり、地域の皆さんも良い体験ができた喜んでおられました。



身近で見られる植物 ⑩

ホソバテンナンショウの実〈サトイモ科〉

今の時期、林の中や林縁の道端で鮮やかな赤い実を着けた植物を見たことはありませんか？春に少し変わった形の花（右の写真は4月頃）を咲かせる通称マムシグサの実です。サトイモ科で花の形がミズバショウやカラーなどと似ています。茎の部分の模様がマムシに似ていることからマムシグサとも言われます。実も含めて全草が有毒ですので触らないようにしましょう。



たじま未来づくり講座 開催

(旧 但馬ふるさとづくり大学)

10月22日（土）公益財団法人但馬ふるさとづくり協会の“2022 たじま未来づくり講座”〈現地講座 草庵先生の教えと青谿書院〉が宿南ふれあい倶楽部で開催されました。参加者は但馬地区20名（豊岡市13 養父市2 朝来市3 香美町2）阪神地区1名（芦屋市）の21名（32歳～78歳）でした。紙芝居「草庵先生」の読み聞かせや青谿書院本館・資料館の見学、地元ガイドの説明を受け、草庵先生ゆかりの地を散策し宿南を知っていただけたと思います。



お知らせ

11月27日（日）花水木の会・ふれあい隊活動日（大掃除）

11月29日（火）浅野の未来を考える会（市川町）来訪

12月18日（日）クリスマス会

※宿南地区魅力発見フォトコンテスト締切日は12月4日まで延長しました。紅葉時季の遅れのため詳しくはチラシをご覧ください。



草庵先生紹介

日記 45



青谿書院の周辺の畑で、塾生たちは自分たちの食べる野菜などを作っていた。

宮崎和夫さん作

塾生たちは、普段自分たちが飲むお茶の葉は自分たちでまかなっていた。

「午後、塾生を連れて山に茶の葉を摘みに行く」（嘉永4〈1851〉年8月10日）これは茶畑に茶の葉を摘みに行ったのではなく、山にある藤の木の葉などを茶の葉の代用とするために摘みに行ったと考えられている。また、自分たちの食べる野菜などもかなり自分たちで作っていた。「午後、塾生たちが野菜や大根などを収穫し、これを洗うのを夕方まで見る」（安政3〈1856〉年11月4日）豊田小八郎著「但馬聖人」によれば、書院の周辺には「数畝の畑があり、ここに野菜を植えていた」とある。数畝が具体的にどれくらいの広さだったか不明だが、塾生に必要な野菜などはかなり収穫できたのだろう。

池田草庵は「学ぶ者は仕事や働くことは嫌がってはいけない」（「偉業餘稿」93条）と言っているように、机に向かって学問することも、体を使って働くことも大事にしていた。

昭和32（1957）年に青溪中学校という青谿書院の名前を引き継いだ学校が発足した。青谿書院の周辺の宿南中学校と伊佐中学校が統合して新たにできた学校だった。その初代校長は渡辺武一氏であった。渡辺氏は学校の方針として生産教育を重視した。それは農産物の生産や家畜の飼育で、人間教育をするというものであった。「作物が育てば、われらも伸びる」が青溪中学校のモットーであった。渡辺氏は青谿書院のある宿南在住の人で、草庵についても敬愛を込めて研究していた。草庵の目指した教育はこのような形で継承されていた。

なお、こんな話が残っている。青溪中学校の発足の時に、その校名を「青谿」中学校とする案もあったが、それではどうもおこがましいという意見が出た。その時、当時の県知事の阪本勝氏から「青溪」の文字にしたらどうかと提案があり、「青溪中学校」という名前に落ち着いたということだ（青溪中学校閉校記念実行委員会編「永遠なり青溪中」から）。その「青溪」の名前は、その後、現在の「八鹿青溪中学校」に引き継がれている。

池田草庵先生に学ぶ会